

秋田の先覚記念室企画コーナー展 「理紀之助と貞直～農聖の底に流れるもの～」 展示報告

浅利 絵里子*

1 はじめに

秋田の先覚記念室（以下、先覚記念室）は、平成8年に秋田県立博物館内に設けられた展示室である。ここでは、明治から昭和にかけて活躍した152名の先覚者について、その業績やエピソードを物語る資料を収集し展示している。このうち58名については常設展示しており、常設展示のない先覚者については、展示室内にある「ふれあいパソコン」を利用したり、「情報資料コーナー」の文献を調べたりすることで、情報が入手できるようになっている。

平成15年度からは年に1回、先覚記念室中央のスペースにおいて「企画コーナー展」を実施している。本稿では、平成27年9月26日（土）から11月29日（日）まで実施した企画コーナー展「理紀之助と貞直～農聖の底に流れるもの～」について概要を報告する。

2 展示の趣旨

今回取り上げた先覚者は、平成27年に生誕170年、没後100年の節目を迎えた秋田市出身の農業指導者、石川理紀之助（以下、理紀之助）である。



理紀之助は、弘化2年（1845）、秋田市金足の農家に生まれる。旧姓奈良・幼名力之助。慶応元年（1865）に潟上市豊川の石川家の養子になり、強い意志と優れた計画性に支えられた説得力のある農業指導で、村民の経済的自立を促した。明治5年（1872）に秋田県庁に出仕し、農業行政に携わり、種苗交換会の創設等に尽力する。明治29年（1896）から適産調を始め、県内外を巡りながら農業の近代化に大

きく貢献した。大正4年（1915）、潟上市で病没。享年70。

農業分野における理紀之助の業績は傑出しており、県や市町村教育委員会製作の副教材にも取り上げられている。また、潟上市の石川理紀之助顕彰会をはじめ、県内外で様々な団体により顕彰活動が行われている。しかし、その多くは農業指導における実績を取り上げるものである。

一方で、理紀之助は生涯25万～30万首の和歌を詠んだとされ、中央の歌人とも交流を持つ文化人であったが、歌人としての側面が取り上げられることは多くない。理紀之助は生涯を通して和歌を詠むことを日課としており、また、その内容についても、「和歌は心のままに詠むのが良い」という趣旨の言葉を残している。このことから、和歌は理紀之助の内面を知る上で重要な資料であるといえよう。

そこで、今回の展示では、一般によく知られている農業指導面での実績のみでなく、歌人としての理紀之助像を紹介することを旨とした。それによって、観覧者にとって理紀之助に対する理解が深まることを期待したのである。

3 資料調査の経緯

理紀之助の農業指導が、広く県内外に及ぶことから、資料の所在地は広汎であり、資料を網羅した調査は難しかった。そこで、展示の趣旨を踏まえて、歌人としての側面を明らかにすると考えられる資料を重点的に調査した。資料の所在を確認し、展示スペースを考慮しながら資料を選定した。本展示で資料協力いただいた箇所は以下の通りである。

潟上市郷土文化保存伝習館（潟上市教育委員会）
・菅江真澄、蓮阿上人関連資料

*秋田県立博物館

- ・適産調関連資料
- ・歌集、詠草集、紀行文

湯沢市役所稲川庁舎（湯沢市教育委員会）

- ・高橋正作関連資料
- ・後藤逸女関連資料

秋田県立図書館

- ・石川理紀之助翁歌集

個人（井川町）

- ・谷頭関連資料
- ・和歌短冊



4 展示構成

メインとなる展示は、解説パネルと展示ケースを1つのセットとし、8つのセットで構成した。その構成は次の通りである。（2）以降は理紀之助の生涯をなぞりながら、ほぼ時系列で配しつつ、和歌の面で理紀之助との関わりを持つ人物を列挙し、その人物との交流を紹介することで、歌人という側面から理紀之助像を明らかにしようとした。



（1）理紀之助と貞直

導入であり、農業に関連した資料と和歌に関連した資料を対比させた。農業関連資料としては、『稲種得失便』や備荒米、和歌関連資料としては『歌会略式』等を展示。

（2）祖父喜一郎と菅江真澄

幼少期の理紀之助に俳句や和歌、書物の楽しさを教えた祖父喜一郎、その祖父の影響で理紀之助が尊敬していた菅江真澄を取り上げた。『石川翁写真帖』や、菅江真澄の没後80年祭のことを記した『秋田にひばり集第6編』等を展示。

（3）蓮阿上人と後藤逸女

理紀之助に「貞直」という号を授けた和歌の師匠である蓮阿、農民でありつつ生涯を通して雅な和歌を詠み続けた後藤逸女を取り上げた。蓮阿の和歌を理紀之助が選んでまとめた『手向草』、理紀之助が逸女を詠んだ和歌短冊等を展示。

（4）高橋正作

理紀之助が老農として尊敬していた高橋正作を取り上げ、互いに宛てて交わした和歌の短冊や、理紀之助の勧めで生まれた正作の著作『農業要録』『飢歳問答』等を展示。

（5）草木谷で

理紀之助が家出した長男民之助を探す旅の様子を記した『ゆめのあと』を紹介した。また、草木谷で理紀之助が研究した農業や生活に関する書籍や適産調関連の資料等を展示。

（6）谷頭での半年

理紀之助が救援に訪れた地は多い。その中で、最も遠方であるとともに長期にわたって滞在した宮崎県での資料『西南紀行』等を展示。

（7）歌友との交流

理紀之助には地元山田村から中央の歌人まで、様々な歌友があったことを紹介した。歌人としての活動を示す資料として『山田の抜き穂』『矯風集』『点取詠草集』等を展示。

（8）底に流れるもの

晩年に及ぶまで、日課として詠み続けた膨大な詠草集の一部を展示。また、明治天皇の御歌所の所長をつとめた高崎正風との交流を示す資料等を展示。最後に、理紀之助の和歌への考え方や生き方を示す和歌として2首を選び紹介した。

企画コーナー展をより多くの来館者に見ていただけるよう、先覚記念室入り口付近に大型のポスターを配置した。また、メイン展示に先立ち、「りきのすけカルタ」を掲示して、小さな子供でも見て楽しめるように配慮した。なお、このカルタのキャラクターは、展示の道案内人という位置付けで用い、動線を明らかにするとともに、展示内容を平易な言葉で解説した。また、来館者を先覚記念室へ誘導する掲示は、正面入り口から見やすい場所に置くなど、案内掲示の配置場所を工夫した。



5 広報活動・来館者の動向など

報道各社への取材依頼、ホームページへの掲載など、様々なメディアを用いて広報活動を行った。種苗交換会においても、ポスターを掲示するなどして紹介した。加えて、理紀之助の生誕 170 年、没後 100 年の節目の年であったため、潟上市主催の行事や秋田魁新報社の特集記事などで取り上げられる機会も得た。また、読売新報社の偉人特集記事に紹介されたことから、東京など遠方から来館される方もいた。地元の自治会報を通して広報活動を実施できた。

6 付帯事業

・講演会「天地の御恵み忘るべからず」

実施日：平成 27 年 11 月 8 日（土）

14：00～15：30

講師：草木谷を守る会代表 石川紀行氏

会場：秋田県立博物館講堂

参加者：82 名



講師の石川氏は理紀之助から数えて 5 代目の子孫であり、現在理紀之助にゆかりのある草木谷にて、様々な普及活動を行っている。理紀之助が残した教えを受け止めた上で、石川氏が社会に対して感じていることや、草木谷での交流活動のことなど、多岐にわたる内容の講演をいただいた。

・紙芝居「石川理紀之助物語」

実施日：平成 27 年 11 月 8 日（土）

13：10～13：30

講師：秋田癒やし旅のサポーター

千葉美栄氏

会場：秋田県立博物館ロビー

参加者：40 名



講師の千葉氏による、昔の紙芝居屋をイメージした語りは、幅広い年齢層の見学者を魅了した。未就学児も多かったが、最後までじっと聞き入っていた。

・展示解説会

実施日：平成27年10月10日(土)、11日(日)、
24日(土)、11月7日(土)、21日(土)、
22日(日)

参加者：延べ数73名

・わくわくたんけん室との連携

実施期間：平成27年10月31日(土)
～11月29日(日)

イベント参加者延べ数：290名

わくわくたんけん室が企画するイベント「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ！」にて、企画コーナー展に関連するミッション(問題)を作成した。展示を見ながら問題を解く親子連れで先覚記念室が賑わった。

・連携企画：秋田県立図書館展示

「秋田の先覚 石川理紀之助」

実施期間：平成27年10月22日(木)
～11月8日(日)

会場：秋田県立図書館2階閲覧室

図書館職員の協力により、閲覧室の一区画を利用して、理紀之助関係資料のコーナー展示が開催された。

7 おわりに

昭和8年発行の『石川翁講演全集』には、理紀之助の次のような言葉が記されている。

- ・「和歌はわづかに一首三十一文字に過ぎざれども、作者其の人の心の得の表現なれば、」
- ・「和歌を詠むは決して難きことに非ず。見るにつけ、聞くにつけ、折りにふれ、感にうたるるにつれて、景物にふれて、心情を詠む、即ち歌なり。」
- ・「我が作れる我が歌なり。我れ死したる後もなほ滅ばせず。我れ和歌を作れば、和歌我れを存するなり。」

これらをみると、理紀之助が和歌を心の発露であり、自らの存在の証であるにとらえていたことがわかる。そこで、今回の展示では、理紀之助の一生を展示の縦軸にすえた上で、人生の節目節目の和歌を紹介することで、当時の理紀之助の心情を浮かび上がらせようと試みた。その成果として、観覧者の反応や感想から、和歌を取り上げたことは、理紀之助に対する理解を深める上で有効であったと感じている。しかし一方で、展示担当者の解釈にとって都合のよい和歌を抽出したにすぎないのではないかという不安がある。また、理紀之助の和歌そのものに対する解釈も十分だとはいえない。

理紀之助の和歌を研究する資料に、『農聖石川翁の伝記と歌集』(昭和13年)がある。著者の児玉庄太郎氏は、当時現存した12万余首に目を通した上で、優れた和歌3千首を選んだとしている。これらの和歌は、児玉氏が自身の感性で選んだもので、季節の詠題ごとに掲載されている。しかし、和歌それぞれについては解説していない。

また、『石川理紀之助翁歌集』(昭和43年)で、著者の川上富三氏は、12万余首の和歌に目を通し、2千首を選んだとしている。川上氏は理紀之助の内面を見つめるためにこの書を著したということもあり、特筆すべき出来事について詠じている和歌や、同じ題材であっても詠出年代の違う和歌は、理紀之助の心情が表れているとしてよく取り上げている。これらの和歌は年代順に採録されており、その時期の理紀之助の日記や他の資料を参照して、事実であるかが確かめられている。しかしこれもやはり、和歌そのものの解釈は読者に委ねられている。

歌人としての理紀之助に対する理解を深化するには、一首一首の和歌に対する理解をさらに深める必要がある。和歌を専門とする人に教えを乞いながら、歌人理紀之助像をより明瞭なものとしていくことを、今後の課題としたい。

最後にこの場をお借りして、調査・展示に関して御教示、御協力いただいた皆様に感謝の意を表したい。

企画コーナー展「理紀之助と貞直～農聖の底に流れるもの～」展示資料リスト

整理 番号	展示 状況	資料名	寸 法 (縦×横cm)	点数	年代	備考	所蔵先
1	資料	稲種得失弁	23×15		明治 34 年	石川理紀之助著	湯上市郷土文化保存伝習館
2	資料	稲種得失弁	27×20	1		石川理紀之助著	湯上市郷土文化保存伝習館
3	資料	苹果品定 後編 全	19×13	1	明治 36 年	石川理紀之助著	湯上市郷土文化保存伝習館
4	資料	苹果品定 上	23.5×16	1		石川理紀之助著	湯上市郷土文化保存伝習館
5	資料	歌会略式	23.5×16.5	1			湯上市郷土文化保存伝習館
6	資料	歌会略式	25×18	1			湯上市郷土文化保存伝習館
7	資料	備考米	径12×18	1		瓶入り	湯上市郷土文化保存伝習館
8	資料	筆	20×6本、 16×1本	7			湯上市郷土文化保存伝習館
9	資料	石川翁写真帖	23.5×16	1		石川太郎著	個人（井川町）
10	資料	秋田のむかし	18.5×12.5	3	明治 31 年	石川理紀之助著	秋田県立博物館
11	資料	秋田にひばり集 6 編	20.5×14.5	1	明治 42 年	菅江真澄についての記述有り	湯上市郷土文化保存伝習館
12	写真	菅江真澄の肖像画		1			秋田県立博物館
13	資料	昭代集二編材料	25.5×18	1			湯上市郷土文化保存伝習館
14	資料	百人一首解説	23.5×16	1		蓮阿上人筆	個人（井川町）
15	資料	七体百首	17.5×12.5	1		蓮阿上人筆（貞直の証明書き有）	湯上市郷土文化保存伝習館
16	資料	手向草	23×16.5	1		蓮阿詠、貞直選	湯上市郷土文化保存伝習館
17	資料	和歌短冊（貞直詠）	36×6	1		「此の君を貧しといふは月花にと みたることをしらぬなりけり」	湯沢市教育委員会
18	資料	和歌短冊（逸女詠）	18×16.6	1		「詠題 竹」	秋田県立博物館
19	写真	後藤逸女肖像画		1			秋田県立博物館
20	資料	和歌短冊（貞直詠）	36×6	1		「雲ゐまできこえあけたる此君は あきたあかたの宝なりけり」	湯沢市教育委員会
21	資料	和歌短冊（種富詠）	36×6	1		「ふた葉よりかくはしき樹のかけ しけり君はよそちの老の初花」	湯沢市教育委員会
22	資料	秋田善行録	23×15	1	明治 29 年	石川理紀之助著	湯上市郷土文化保存伝習館
23	資料	飢饉年の鏡	23.5×16	1		高橋正作著	湯沢市教育委員会
24	資料	農業随録	23.5×16	1	明治 18 年	高橋正作著	湯沢市教育委員会
25	資料	飢歳問答	22×14.5	1	明治 24 年	高橋正作著	湯沢市教育委員会
26	資料	老の田うた	18.5×12.5	1		高橋正作著	湯沢市教育委員会
27	資料	高橋正作の写真	15×18	1			湯沢市教育委員会
28	写真	経済の言葉		1		軸装	湯上市郷土文化保存伝習館
29	資料	草木谷 山居成績	18.5×12.5	1	明治 28 年	石川理紀之助著	秋田県立博物館
30	資料	草木谷 山居成績	21.5×15	1	明治 26 年	石川理紀之助著	湯上市郷土文化保存伝習館
31	資料	草木谷 庵の手なべ	18.5×12.5	1	明治 30 年	理紀之助著 製本	秋田県立博物館
32	資料	夢のあと	18.5×12.5	1		石川貞直著	個人（井川町）
33	資料	適産調	19×26	6		稲庭村旧跡考	湯上市郷土文化保存伝習館

34	資料	草木谷庵の手なべ (前後)	23.5×16	2	明治 31 年	理紀之助著 自筆本	潟上市郷土文化保存伝習館
35	資料	探針	104×10	1			秋田県立博物館
36	資料	西南紀行	23.5×16	4	明治 35 年	伊藤甚一著	個人 (井川町)
37	資料	中霧島農具図解	23.5×16	1	明治 35 年	伊藤甚一著	個人 (井川町)
38	資料	竹筒	径14×13× 36, 径13× 13×26	2	明治 35 年	貞直の和歌有り	個人 (井川町)
39	資料	九州の草木	23.5×16	1	明治 35 年	伊藤甚一著、押し葉帳	個人 (井川町)
40	資料	九州滞在中事物	25×17	1	明治 35 年		潟上市郷土文化保存伝習館
41	資料	九州六ヶ月	25×18	1	明治 35 年		潟上市郷土文化保存伝習館
42	資料	九州置き土産	24×17.5	1	明治 35 年		潟上市郷土文化保存伝習館
43	資料	きりしま山	19.5×13	1	明治 35 年		潟上市郷土文化保存伝習館
44	資料	九州への地図	37.5×32	1	明治 35 年		個人 (井川町)
45	資料	点取詠草集	30×21.5	7	明治 34 ～ 42 年	中島大宗匠宛、遠山大人宛 北原宗匠宛	潟上市郷土文化保存伝習館
46	資料	矯風集	23.5×15.5	1	明治 21 年		潟上市郷土文化保存伝習館
47	資料	山田の抜穂	19×14	1	明治 15 年		潟上市郷土文化保存伝習館
48	資料	早稲穂のかづら	19.5×13	1	明治 17 年	製本	潟上市郷土文化保存伝習館
49	資料	早稲穂のかづら 4 編 稿	25.5×18	1		貞風編、貞直選	潟上市郷土文化保存伝習館
50	資料	千浪先生真名序	33×12	1	明治 34 年	貞直の朱書き有り	潟上市郷土文化保存伝習館
51	資料	初めぐり	18×12.5	1	明治 10 年	県役人時代の紀行文	潟上市郷土文化保存伝習館
52	資料	万色紀行	17.5×13	1	明治 13 年	県役人時代の紀行文	潟上市郷土文化保存伝習館
53	資料	和歌短冊 (老之助詠)	36×6	1		「うれしくも年の始めに梅さきぬ かめにやささんかざしにやせん」	個人 (井川町)
54	資料	男鹿島めぐり歌集	18×25	1			潟上市郷土文化保存伝習館
55	資料	秋田にひばり集 5 編	20.5×14.5	1		高崎正風についての記述有り	潟上市郷土文化保存伝習館
56	資料	貞直詠草返草	25.5×18	7	明治 39 ～ 大正 3 年		潟上市郷土文化保存伝習館
57	資料	日課詠草集 (箱)	25×25×28	1	明治 35、36 年	木箱 (詠草 16 冊入り)	潟上市郷土文化保存伝習館
58	資料	日課詠草	25.5×18	4	明治 41 年		潟上市郷土文化保存伝習館
59	資料	一日一首日課詠	25.5×18	1	大正 4 年		潟上市郷土文化保存伝習館
60	資料	石川理紀之助百歌集	56.5×58	2			秋田県立図書館
61	資料	りきのすけカルタ (大)	A 4 サイズ	1			潟上市教育委員会